

中世

12世紀半ば

16世紀後半

海を越えてきたお金

Inflow of Coins from Overseas

12世紀半ばから16世紀の日本では、中国の銭貨（渡来銭）が使われていました。13世紀以降、商品経済の発展とともに、銭貨の使用が浸透していきました。

15世紀後半以降、銭貨の不足から、国内外で私的につくられた銭貨が使われるようになり、人々の間で銭貨を種類や形状によって区別する「撰銭」が起りました。

Medieval Times From the mid-12th to the late 16th century

Chinese coins (*toraisen*) came into use in Japan from the middle of the 12th century through to the 16th century. Coins circulated widely beginning in the 13th century, along with the growth of the commercial activities.

From the latter half of the 15th century, coins which had been privately minted in Japan or overseas began to circulate in response to a shortage of coins. This led to the practice of *erizeni*, in which people classified coins by type or shape.

平安時代 Heian Era

12世紀半ば
Mid-12th century

渡来銭の流入開始
Inflow of Chinese coins

鎌倉時代 Kamakura Era

13世紀 前半
Early 13th century

渡来銭の浸透
Chinese coins accepted and widely used

14世紀
14th century

商品流通の発展と
銭貨需要の増大
Growth of commercial activities
and the needs of coins

室町時代 Muromachi Era

15世紀 後半
Late 15th century

撰銭の発生
Coins classified

16世紀半ば
Mid-16th century

金貨・銀貨の登場
Introduction of gold and silver
coins

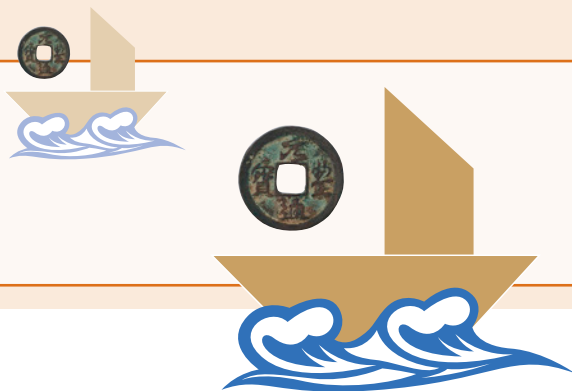


1

銭がやってきた

渡来銭のはじまり

Chinese Coins Begin to Flow in



受け入れられた銭貨

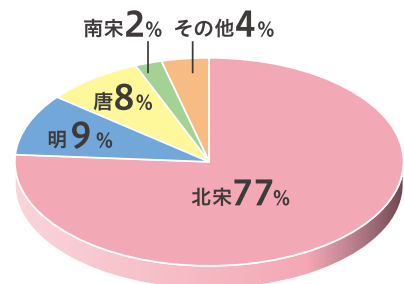
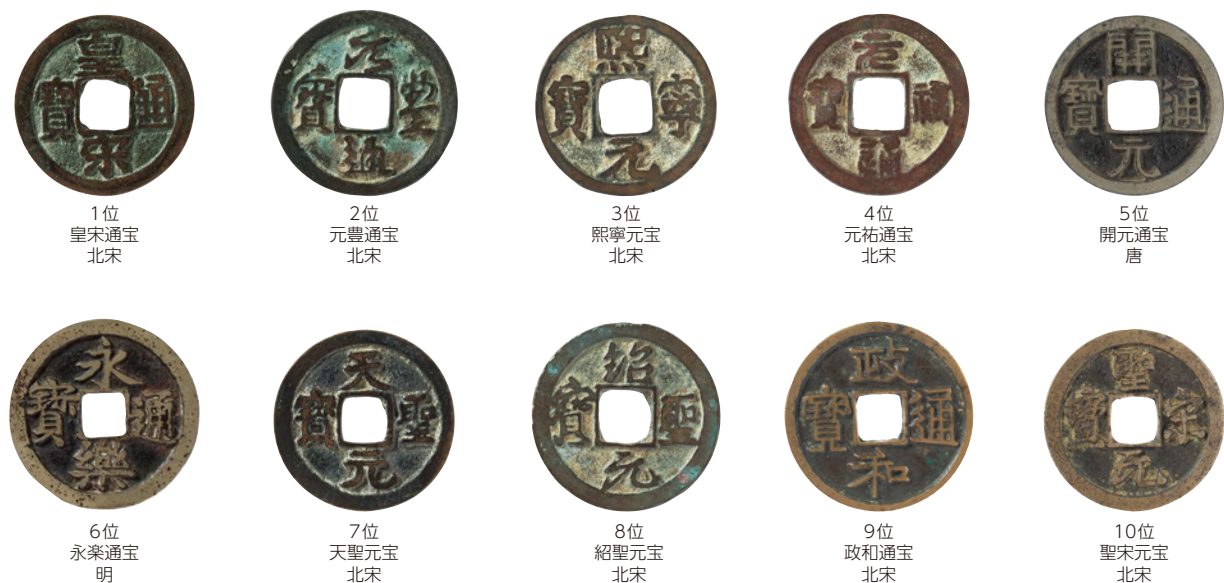
Copper Coins Accepted

12世紀半ば以降、中国から銭貨が大量に流入すると(渡来銭)、人々の間で広く使われるようになった。銭貨は1枚=1文の価値をもち、米や絹のように量をはかる必要がなく、少額の取引にも高額な取引にも使われた。

日本で使われた中国の銭貨

北宋(960~1127年)は、中国歴代王朝のなかで最も多くの銭貨をつくった。日本の中世の遺跡からは、北宋の銭貨が多く出土している。

[日本での出土数の多い中国の銭貨] Chinese Copper Coins in Japan



日本の大量出土銭における中国の各王朝の銭貨の割合
鈴木公雄「出土銭貨の研究」より作成

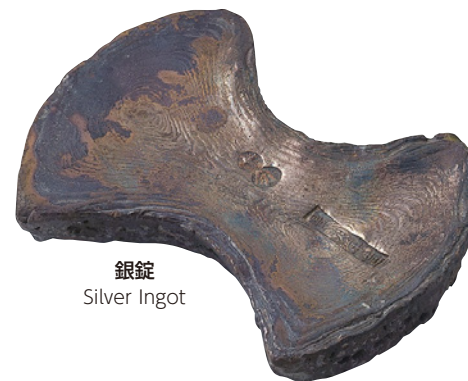
memo 銭貨を発行しなかった中世国家

中世の日本では国家(朝廷・幕府)が貨幣を発行することはなかった。14世紀前半、後醍醐天皇は紙幣・銭貨の発行を計画していた。しかし、建武の新政の失敗で、貨幣の発行には至らなかった。

中国で使われた貨幣

王朝が変わるたび、さまざまな貨幣政策がとられ、銭貨のほか、銀や紙幣が使われた。時代を経るにつれ、中国からアジアの各地に銭貨が流出するようになった。

[宋] 北宋960~1127年・南宋1127~1279年
Song



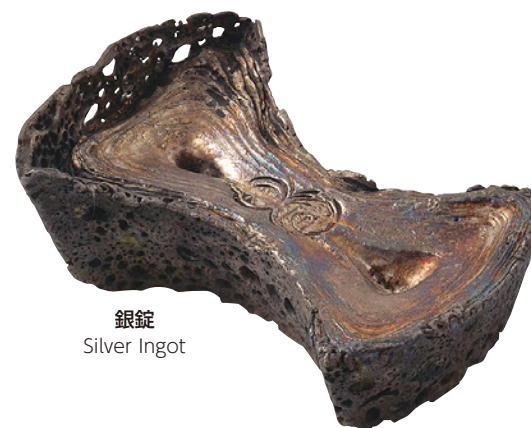
銀錠
Silver Ingot

[明] 1368~1644年
Ming



紙幣 大明通行宝鈔
Government Note

[元] 1271~1368年
Yuan



銀錠
Silver Ingot



銭貨
大元通宝 当十錢
Copper Coin with a Value of 10 Mon

朝鮮・ベトナムでつくられた銭貨

朝鮮やベトナムなどでも円形方孔の銭貨が使われていた。

[朝鮮]
Korea



海東重宝

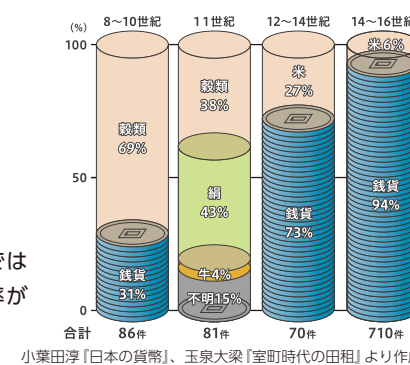
[ベトナム]
Vietnam



延寧通宝

memo 土地の売買契約書にみる銭貨の使用

12世紀以降、日本では銭貨を使用する比率が高まった。



小葉田淳「日本の貨幣」、玉泉大梁「室町時代の田租」より作成

2 米か、銭か

代銭納と銭貨の使用の広がり
Payment of Taxes in Cash Promotes Coin Usage

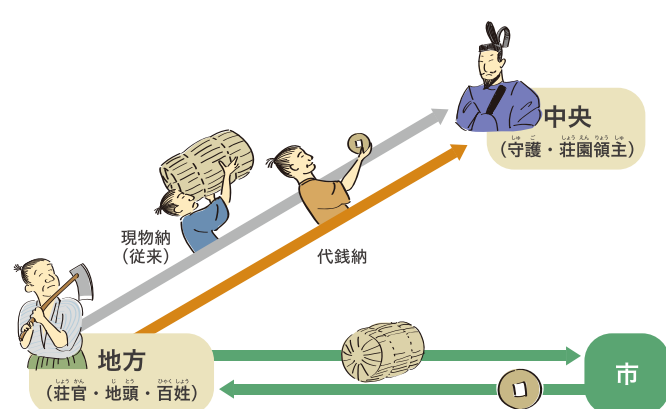
人々に使われる銭貨

Copper Coins Used by People

国 内で銭貨の使用が広がると、人々は米などの生産物をそのまま年貢として納めるのではなく、代わりに銭貨で納めるようになった(代銭納)。これにより、人々の間で銭貨の使用がさらに広がり、米や絹に代わり銭貨が使われる機会がますます増えていった。

銭貨で年貢を納める

納められた年貢は、地方から中央に米などの生産物のまま送られていた。しかし、次第に人々は地方の市で生産物を売って得た銭貨で年貢を納めるようになった。米の代わりに銭貨で年貢を納めると、年貢の荷は大幅に軽くなった。



銭貨の浸透

人々の間では、日常の仕事や買い物、旅での支払いなど、様々な場面で銭貨の使用が浸透していった。

右の絵は、鎌倉幕府の御家人が川に落とした10文を拾うため、50文で松明を買い、従者に探させる逸話の一場面。鎌倉時代に銭貨が浸透していたことをうかがわせる。

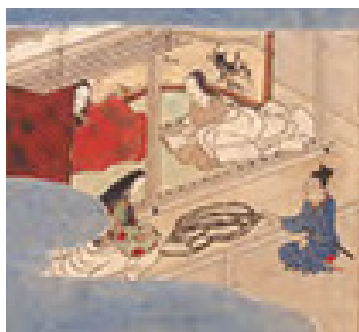


落とした銭貨を探す武士
Samurai Warriors Searching for Their Lost Coins
[教導立志基 青砥藤綱]

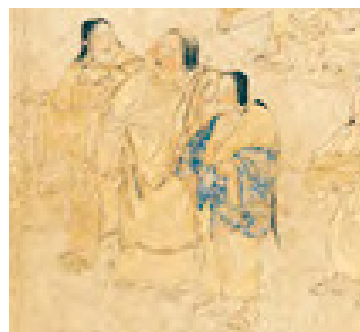
memo

お金持ちの登場

諸国をつなぐ交通の要所にある市では、「有徳人」とよばれる裕福な商工業者が現れた。有徳人として、品物の輸送や販売・送金などを行う「問丸」、金融業者である「借上」や「土倉」などがあげられる。



借上から借りた銭貨を数える侍女
[山王霊験記絵巻] 和泉市久保記念美術館蔵



歩くことも困難なほど太った借上
[病草紙] 福岡市美術館蔵(松永コレクション)



火事で残った土倉
[春日権現験記絵] 宮内庁三の丸尚蔵館蔵
土倉は貸出だけでなく預金業務も行い、「中世の銀行」ともいえる存在だった。

3 市のにぎわい

商品流通の発達
Development of Commercial Activities

市の発達

The Development of Marketplaces

各 地の市では、代銭納の普及などにより荘園の生産物が商品として取引されるようになった。新たな特産物が登場し、地域を越えた商品の流れが生まれた。

[備前国福岡の市(現・岡山県)の様子] A Busy Marketplace



鎌倉時代後期には、各地の定期市がにぎわった。多くの人が集まる市ではさまざまな商品が売買された。
[一遍聖絵] 清浄光寺(遊行寺)蔵



銭さしで布を買おうとする男性

銭さしを数える女性



米のはかり売りをする男性

中世の職人・商人たち

職人・商人のなかには、権力者や寺社に奉仕し、通行税の免除などの特権を得て「供御人」「神人」として諸国を移動したり、同業者集団「座」を結成する人々もいた。

[さまざまな商人と商品の値段の一例]

Merchants and the Price of Their Products



米売り
米1升=8~10文



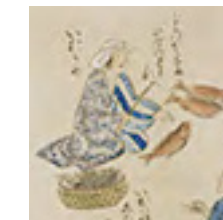
茶売り(一服一銭)
抹茶1服=1文



扇売り
扇1枚=10~50文



油売り
荳油1合=30文



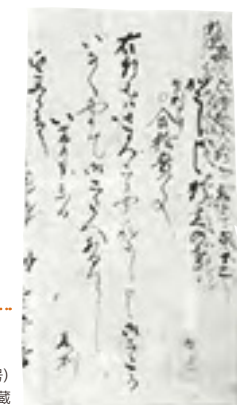
魚売り
鯛1尾=15文

[七十一番職人歌合] (模本) 東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives

memo 中世の手形「割符」

京などと各地の市の間では為替を利用した送金が行われていた。紙に金額などが記された割符は、銭貨に比べて軽量であるなど利便性が高かったことから、離れた地域間での送金・支払いのために使われた。

「割符」10貫文
[割符案]
(東寺百合文書 せ函71号)
京都府立京都大学・歴史館蔵



4 埋められた銭

Coins Hoarded



銭貨はなぜ埋められた？

Why Were Coins Hoarded?

13 世紀後半から16世紀後半の遺跡から、銭貨を集めて壺などに入れた事例が多く発見されている。銭貨をまとめて埋めた理由としては、貯蔵・貯蓄、戦争や災害などからの緊急避難、まじないなどさまざまな説がある。



屋敷の溝から銭を掘り出す様子
Recovering Coins from a Ditch at a Home

【一遍聖絵】清浄光寺（遊行寺）蔵

出土した銭貨の種類

各地の遺跡から出土した銭貨をみると、14世紀以前は、全国的に北宋銭が多く、北宋銭が広く浸透していたことがわかる。15世紀以降、明銭が流入するようになると、出土する銭貨に地域差が出てくる。



銭貨が入っていた壺
Pot Filled with Coins
16世紀ごろ
宮崎県西臼杵郡出土
渡来銭など66種類、約7,700枚の
銭貨が入っていた。

memo

銭さしは何文？

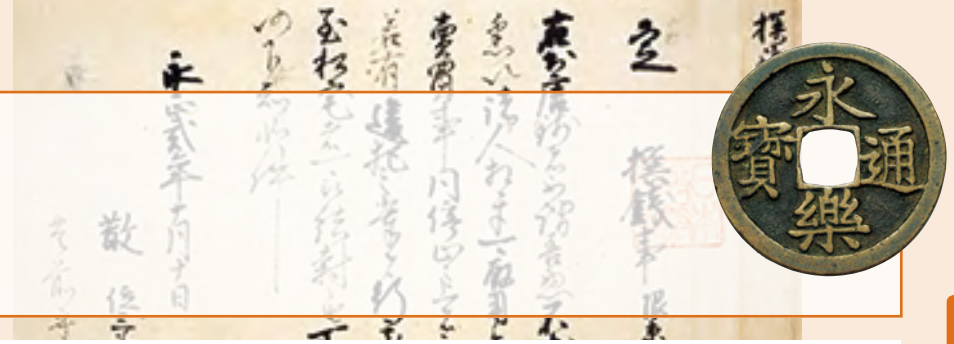
銭貨は通常 1枚=1文 として使われた。しかし、中世には紐を通して銭さしにすると97枚で100文とみなして使われることが多かった。草戸千軒町遺跡（広島県）で出土した銭さしはその5割以上が97枚であった。なお、近世になると、一文銭96枚を100文とみなして使われた（九六銭）。



5貫文の銭さし
重要文化財 広島県草戸千軒町遺跡出土品
画像提供：広島県立歴史博物館

5 撰銭

えりぜに
人々にえらばれる銭
Coins Classified



撰銭と撰銭令

Classifying of Coins and Regulations

商 品流通が盛んになると、大量の銭貨が必要になる。しかし、15世紀後半には中国から入ってくる銭貨の量が減った。そして、国内外で私的につくられた銭貨（模倣銭・私鑄銭）が流通するようになり、人々は種類や形状により銭貨を区別するようになった（撰銭）。銭貨を使った取引の混乱を収めるため、室町幕府や大名は撰銭令を出した。

流通していたさまざまな銭貨

各地で銭貨の種類などによる価値の差が生まれて、銭貨 1枚=1文 という価値が崩れ、銭貨を使った取引は混乱した。権力者などが排除すべきと考えた銭貨も、さまざまな交換比率のもとで使われ続けた。使われた銭貨の価値は、地域や時期によって異なっていた。



宋銭
Song Coins (Copper)

明銭
Ming Coins (Copper)



鑄写銭
Privately Minted Coins Modeled After Chinese Coins

中国銭をもとにつくられた銭貨。鑄写し（コピー）が繰り返されたことなどから、文字が不鮮明で、もとの銭貨よりも小型で薄く、粗悪なものが多い。

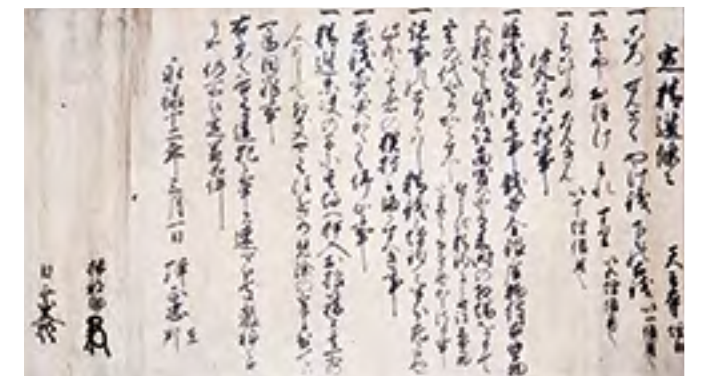
撰銭令

15世紀後半から16世紀にかけて、室町幕府や大名はたびたび撰銭令を出した。



室町幕府の撰銭令
Order by the Muromachi Shogunate
1505 (永正2) 年
国立公文書館蔵 画像提供：国立歴史民俗博物館

室町幕府の撰銭令では、銭貨全体の流通を阻害するような粗悪な銭貨の使用を禁止する一方、それ以外の銭貨は、あくまでも 1枚=1文 で使わせようとした。



織田信長の撰銭令
Order by Oda Nobunaga
1569 (永禄12) 年
四天王寺蔵

信長は、幕府や戦国大名による撰銭令で使用が禁止されていた銭貨の使用を認めるとともに、銭貨間の価値の違いを認め、流通するさまざまな銭貨の交換比率を定めた。



無文銭と鑄型 (複製)
16世紀半ば～後半
堺環濠都市遺跡 (大阪府) 出土
原資料：堺市文化財課蔵



永楽通宝の枝銭 (複製)
15～16世紀
村松白根遺跡 (茨城県) 出土
原資料：東海村教育委員会蔵



島銭
Shimasen
14～15世紀
独自の銭文をもつものが含まれる。



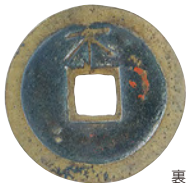
加治木銭
Kajikisen
16～17世紀
大隅加治木郷 (現・鹿児島県) でつくられたとされる。
裏面に加・治・木のいずれかの文字のあるものが多く、
銭文は「洪武通宝」が多い。



裏



裏



裏

琉球の銭貨
Ryukyu Coins

琉球 (現・沖縄県) では、独自の銭貨がつくられたほか、渡来銭も使われた。大量の銭貨を蓄える慣習はなかったこと、また南宋や明で発行された大銭 (大型で一文銭より高額面の銭) が使われたことなどが明らかになっている。



大世通宝
Daise Tsuho



世高通宝
Sedaka Tsuho

琉球でつくられた銭貨。



鳩目銭
Hatomesen

鳩の目のような形をした小型の無文銭。
琉球では16世紀頃から使われたとされる。



封印銭
Sealed Hatomesen

鳩目銭400～1,000枚に細縄を通し、
結び目に封をしたものである。

「びた」に秘められた歴史

16世紀末の銭貨
(東日本の事例)



永楽通宝
希少



びた*
広く流通



質の悪い銭貨

江戸時代以降に「鋳銭」の文字が当てられた「びた銭」は質の悪い銭貨を指すものとされてきた。
しかし、16世紀後半においては「びた銭」が必ずしも質の悪い銭貨を指すわけではなかった。

*びたはイメージ画像